

島根県保健医療計画（松江圏域編）について

基本理念
 すべての県民が、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を実現するため、良質かつ適切な保健・医療・福祉サービスの効率的な提供をめざして、平成30年4月に改定した。

位置づけ

- ① 医療法に基づく「都道府県医療計画」（従来策定していた「地域医療支援計画」及び「周産期医療体制整備も一本化）
- ② 健康増進法に基づく「都道府県健康増進計画」（健康長寿しまね）
- ③ 次世代育成支援対策推進法に基づく「健やか親子しまね計画」

記載内容

第1章	基本的事項 (趣旨・基本理念・目標・位置づけ・期間)
第2章	地域の現状
第3章	医療圏及び基準病床数 (医療圏の設定、二次医療圏ごとの基準病床数)
第4章	地域医療構想※別冊の概要版を記載
第5章	医療提供体制の現状、課題及び施策の方向 (5疾病・5事業及び在宅医療の医療連携体制)等
第6章	健康なまちづくりの推進 (健康長寿しまね推進計画) (健やか親子しまね計画) (高齢者の疾病予防・介護予防対策) 等
第7章	保健医療従事者の確保及び医療・保健・福祉情報システムの構築
第8章	将来の保健医療提供体制の確保に向けた事業の推進 (推進体制と役割・評価・周知と情報公開)

第1節 住民・患者の立場に立った医療提供体制の構築
 第2節 疾病・事業ごとの医療連携体制の現状、課題及び施策の方向

*5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）と5事業（小児救急を中心とした小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、地域医療）及び在宅医療について、医療提供体制、施策の方向を記載

第5節 感染症保健・医療対策

*感染症全般の施策の方向を記載

推進体制

- 県・市はもとより保健医療福祉関係者、住民の方々との連携と協力の下、着実な推進を図る
- 松江圏域保健医療対策会議（地域医療構想調整会議）：松江医療圏の行政、保健医療関係者、住民代表等で構成され、松江圏域計画の推進を行う



5疾病・5事業及び在宅医療等の施策の方向に基づく令和元年度の取組状況は次頁のとおり



平成 31 (令和元) 年度 保健医療計画 (松江圏域編) の取組状況

第5章 医療提供体制の現状、課題及び施策の方向

第1節 住民の立場に立った医療提供体制の構築 1. 医療連携体制の構築

- 松江地域保健医療対策会議、保健医療対策会議 医療介護連携部会 (松江地域医療構想調整会議)、病院長等会議を開催し、圏域における医療機能分化や連携、医療介護連携等について検討した。
- 医療法等の一部改正により、圏域版の医師確保計画及び外来医療計画を策定した。
- 厚生労働省から、再検証を求める医療機関として圏域内の松江医療センター、JHCO 玉造病院が該当となった公表がなされ、3 月末までに再検証の結果報告を行うこととしている。
- 病床稼働率による病床削減や病院から診療所への転換等による病棟廃止の医療機関もあり、圏域全体の病床数は減少傾向にある

【会議概要】

【会議名】松江圏域病院長等会議

【日時】令和元年8月27日(火) 14:00~15:30 【場所】松江合同庁舎 2階 講堂

【出席者】管内病院長等、両市医師会長等、両市所管部長等 (36名)

【議事内容】

1. 医師確保計画・外来医療計画について
2. 松江構想区域地域医療構想について
3. その他

【主な意見・協議結果について】

1. 医師確保計画及び外来医療計画及び圏域計画の策定に関する概要説明
2. 30年度病床機能報告をもとに松江構想区域地域医療構想の情報共有
3. 意見交換では各病院から医療機能や病床の状況、医療介護連携に関する取組みや課題等について報告いただき情報共有。平成30年の診療報酬改定により、地域包括ケア病床の在宅復帰率のカウントに老人保健施設や医療療養病床が在宅と見なされなくなったことでの患者移動や医療連携への影響が話題になった。

【会議名】松江圏域保健医療対策会議 医療介護連携部会

【日時】令和元年11月7日(木) 13:30~15:30 【場所】松江合同庁舎 2階 講堂

【出席者】管内病院長等、両市医師会長、介護保険事業者代表、医療保険者、両市所管課長等 (57名)

【議事内容】

1. 松江圏域医師確保計画(案)及び外来医療計画(案)について
2. 松江構想区域地域医療構想及び医療・介護連携について *意見交換については「非公開」で実施

【主な意見・協議結果について】

1. 松江圏域医師確保計画(案)及び外来医療計画(案)については、医師確保の具体的な方策や小児科医師の確保に関する意見、さらには、新規開業者への情報提供に関する意見などが出された。
2. 医療介護連携に関しては、回復期・慢性期から在宅・施設での療養へのつなぎ、また、施設での看取りに関する事などが話題になった。病院から次の療養場所へ移るに関しては、病状以外にも費用の問題等で調整が難しい場合もあること、施設で看取りを進めるためには施設職員の意識改革やスキルアップも必要というような意見も出された。
3. 松江市からサービス付き高齢者住宅の調査結果が報告され、再調査の実施等も含め、行政の関与を要望するような意見もあった。
4. 本年9月の地域医療構想における再検証が必要な医療機関の公表に関する情報提供も行われた。

平成 31（令和元）年度 保健医療計画（松江圏域編）の取組状況

* 毎年度継続実施の取組は省略、年度中のトピックスや特徴的なことを中心に記載

第5章 第2節 疾病・事業ごとの医療連携体制の現状、課題及び施策の方向

項目名 1. がん

【1. がん予防（発生リスクの低減、早期発見・早期受診）の推進】

- 松江圏域健康長寿しまね推進会議において、生活習慣病予防に関する取組を推進し、活動推進交流会ではがん検診の重要性に関する啓発ブースを設置した
- 松江市医師会主催の「第5回市民公開講座」において、まめなサポーターの協力により、がん検診受診率向上に向けた啓発を行った
- 事業所出前講座では、働き盛り世代へ向けた健康教育として、大腸がんをはじめとするがんに関する知識の普及啓発を行った。

【3. 緩和ケア】

- 松江圏域における緩和ケアの体制整備を目的に緩和ケア検討会を開催予定（2/25）
- 「施設における緩和ケア」をテーマに事例検討会を実施。施設における取り組みや課題について参加者で共有した。

【6. がん教育】

- 学校関係者、事業所などに向けた健康教育出前講座を実施した。

項目名 2. 脳卒中

【1. 脳卒中（発症予防、早期発見）の推進】

- 松江圏域健康長寿しまね推進会議の広報誌等で脳卒中予防について啓発した。
- まちの食育ステーション事業で地元スーパーと連携し、食生活改善推進員が食育の日等にあわせ、「うす味レシピ」の試食やレシピの配布を実施した。
- しまね高血圧予防事業における啓発活動を実施した。
- 脳卒中地域連携パス合同委員会において、脳卒中発症者状況調査結果や松江圏域における取組状況、課題等について報告した。
- 働きざかりからの生活習慣病対策として事業主セミナーを開催し、希望者には歯周病唾液検査を実施した。

【2. 脳卒中の診断・治療】

- 「脳卒中地域連携パス合同委員会（松江市）」及び「地域連携パス検討委員会（安来市）」へ参画し、パスの利用状況を確認するとともに、現状と課題について意見交換を実施した。
- 松江・安来地域の歯科医師会とケアマネなどが中心となり口腔ケアの勉強会が実施された。
- 施設の職員等が活用できるよう「口腔ケアマニュアル」を松江市医師会で作成された。

【3. 脳卒中の医療連携体制】

- 圏域脳卒中予防検討会を開催し、圏域内の医療機関を含めた関係者と圏域の脳卒中の現状や課題について共通認識を図り、取組の方向性を検討する。（2月20日開催予定）

項目名	3. 心筋梗塞等の心血管疾患
<p>【1. 心筋梗塞等の心血管疾患の予防（発症予防、早期発見）、重症化防止の推進】</p> <p>○心筋梗塞等の心血管疾患の一次予防として、たばこ・アルコール、運動、栄養等生活習慣の改善についてイベント等、様々な機会啓発した。</p> <p>○松江圏域働きざかりの健康づくり研修会（事業主セミナー）にて病気の早期発見・重症化予防をテーマにした講演を実施した。</p> <p>○事業所への出前講座等で生活習慣病予防等について啓発した。</p> <p>○松江圏域健康長寿しまね推進事業でかかりつけ歯科医をもつよう啓発。事業所での「歯周病唾液検査」普及のため事業主セミナーを活用して周知、希望者には検査を実施した。</p>	
項目名	4. 糖尿病
<p>【1. 糖尿病対策推進体制】</p> <p>○「松江地域糖尿病対策会議」や「安来市糖尿病管理協議会」に参画し、関係機関と連携して取組を行った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安来市糖尿病管理協議会における、糖尿病の適正管理対策として「糖尿病患者登録システム」を導入し、糖尿病のコントロール、悪化・合併症防止対策に取り組んでいる。今年度は登録システムの評価、今後の運用について支援を行った。 <p>【2. 糖尿病予防（発症予防、早期発見）の推進】</p> <p>○「松江地域糖尿病対策会議」や「安来市糖尿病管理協議会」に参画し、関係機関と連携して取組を行った。</p> <p>○松江地域、安来市それぞれに医科歯科連携の取組について検討。松江地域では糖尿病連携手帳、おくすり手帳を活用した連携を実施した。</p> <p>【3. 糖尿病による合併症予防の推進】</p> <p>○松江地域糖尿病対策会議における腎症重症化予防委員会への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病腎症重症化予防症例検討会、講演会への参加 ・世界腎臓デー市民公開講座の開催 <p>○松江市における、CKD（慢性腎臓病）の早期発見と重症化予防の取り組みへ支援した。</p> <p>○安来市糖尿病管理協議会における「糖尿病管理マニュアル【平成30年度版】」による糖尿病の早期発見・治療の重症化予防対策実施に向けた支援を行った。</p> <p>○松江地域糖尿病対策会議は松江市歯科医師会から、安来市糖尿病管理協議会には安来市歯科医師会、安来地区歯科衛生士会から委員が参画、医科と歯科の連携を推進している</p>	

項目名

5. 精神疾患

【1. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築】

- 圏域における精神障がい者の入院実態を把握するため、精神保健福祉資料（通称 630 データ）の分析を行った。
- 精神科訪問看護における現状、課題について把握し、次年度以降の多職種連携に向けた取り組みを検討する予定。
- ピアサポーター等活用事業県要綱改正の動きを受け、ピアサポーター意見交換会、病院、委託先地域活動支援センターへの聞き取りを行った。3月中に地域活動支援センターへ活用周知を行う。
- 精神保健ボランティアフォローアップ研修を実施した。

【2. 多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築】

<うつ病・躁うつ病>

- 松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、妊産婦の状態を確認する質問票について、各医療機関での活用状況や課題を確認した。
- 松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、「メンタルヘルスに問題のある妊産婦への支援」をテーマに産科精神科連携について検討を行った。

<認知症>

- 松江市内に認知症疾患医療センター（連携型）設置予定。今後、県から国へ協議書を提出し、内示を受ける予定。その後、県によりR2年10月1日に指定となる。
（設置希望医療機関）・松江青葉病院・こなんホスピタル・まつしま脳神経内科クリニック

【3. 精神科救急医療提供体制等の整備】

- 一般医科と精神科との医療連携の推進を目的とした「かかりつけ医等研修会」を2月28日（金）19時30分～開催予定
講演「若者の自死予防を考える～医師や教育関係者ができること～」
講師 筑波大学医学医療系臨床医学域 災害・地域精神医学教授 太刀川弘和氏
- 自死未遂者への対応状況把握するため救急告示病院へ聞き取りを行った。

項目名

6. 救急医療

【1. 救急医療体制】

- 日立記念病院がR1.9月末で救急告示を取り下げし、安来市内には救急告示病院が安来市立病院1か所になった。

項目名

7. 災害医療（災害時公衆衛生活動を含む）

【1. 地震、風水害等災害時の医療救護（災害時公衆衛生活動を含む）】

- 広域災害救急医療情報システム（EMIS）通信・入力
訓練への参加（5/30）…参加医療機関14病院。訓練を通し、保健所職員のEMIS入力の周知も行った
- 松江・安来地域災害医療対策会議を開催予定（2月28日）

項目名	8. 地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）
<p>【2. 地域医療に従事する医師の確保・養成・支援を行うための施策の推進】</p> <p>○8月（3月も予定）に島根大学医学部学生2名を地域医療実習として受入れ、へき地診療所等で地域医療の体験をしてもらった。</p> <p>【4. 地域医療を確保する施策の推進】</p> <p>○圏域内3病院（松江赤十字病院、安来市立病院、安来第一病院）が地域医療拠点病院の指定を受けているが、新たに2病院が指定を受けて、へき地等に医師やコメディカル等を派遣する予定になっている</p> <p>○医師確保計画のなかで、へき地等の医師確保が困難な地域として医師少数スポットを設定した</p>	
項目名	9. 周産期医療
<p>【1. 周産期医療ネットワーク】</p> <p>○松江圏域周産期医療連絡協議会において、母体搬送及び新生児搬送や搬送体制に関する医療機関同士の連携強化を図るため、情報共有を行っている。</p> <p>○松江圏域周産期医療連絡協議会では、災害時小児・周産期リエゾンをテーマに研修会を行い、災害時における各医療機関及び行政の対応や連携について検討を行った。</p> <p>【2. 中核となる医療機関と地域周産期医療関連施設における機能分担と連携の推進】</p> <p>○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会の開催に合わせ、産科医療機関と行政の情報を集約した「かるがもファイル」を更新し、取組状況を共有した。</p> <p>【5. 妊産婦の健康管理の充実】</p> <p>○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、妊産婦の状態を確認する質問票について、各医療機関での活用状況や課題を確認した。</p> <p>○松江圏域周産期医療連絡協議会看護連絡会では、「メンタルヘルスに問題のある妊産婦への支援」をテーマに産科精神科連携について検討を行った。</p> <p>○松江圏域周産期医療連絡協議会では、今後、産科医療機関と行政の連携を図るため、県内の産後ケア事業の実施状況及び圏域の状況について情報提供を行った。</p> <p>【7. 重症児等の支援】</p> <p>○医療的ケア児について、家族及び支援機関で共通認識を図りながら支援を行っている。（保育所入所に関する支援、災害支援マニュアルの作成等）</p> <p>○長期療養児の家族交流会等の活動を支援し、圏域内外からより多くの参加につながるよう行政を通じた情報提供を行っている。</p>	
項目名	10. 小児救急を含む小児医療
<p>○特徴的な取組はなし</p>	

項目名

1-1. 在宅医療

【1. 市単位での在宅医療連携体制の構築】

- 松江市在宅医療・介護連携支援センターが主催となり、市内病院、松江市、保健所との情報共有等の場合は継続して実施している。(年3回)

【2. 在宅療養移行に向けての支援】

- 圏域内の登録研修機関、松江市立病院、松江市関係課と連携して独自に喀痰吸引等3号基本研修を開催した。
- 松江市在宅医療・介護連携支援センターが主となり、松江市版入退院連携ガイドラインが作成された。作成までの経過では病院、訪問看護、ケアマネの現状と課題を整理され、ガイドラインに反映されている。

【3. 在宅での療養支援】

- 圏域歯科診療所情報の活用について、訪問看護ステーション、ケアマネ協会等に説明
 - ・新たに開設された歯科診療所には1月調査実施予定
 - ・3年ごとに更新することで両市歯科医師会長と確認
- 島根県老人福祉施設協議会ヘルパー部会松江支部の役員に訪問介護の現状を聞き、介護員が喀痰吸引研修を受講してもらえる条件などの情報収集を行った。
- 松江市では、松江市医師会、市内の病院、訪問看護、福祉施設、公民館代表等を構成員としてACP普及・啓発推進協議会が10月に立ち上がり、市民講座を11月30日に開催した。

第6章 健康なまちづくりの推進

第5節 感染症保健・医療対策

- 風しんは、感染症法に基づく全数把握疾患(5類)である。前年から全国的に流行している中、平成31年4月初旬に管内で初発患者が発生し、サーベイランス体制を強化したところ、7月までに17例の発生があった。
- 2019年12月25日時点における島根県の人口百万人あたりの風しん患者数は43.2人であり、都道府県別では、東京都の63.2人に次いで全国2番目であった。また、県内においては管内からの報告が56.7%を占めた。終息するまでの間、管内の風しん流行の全体像の把握に努めるとともに、先天性風しん症候群対策を実施した。
- 今回の流行では、風しん抗体が十分に獲得されていないとされる30代から50代の男性にり患者が多く(14例)、全国的な傾向と同様であった。
- 今年度から施行された、40-50歳代男性に対する定期予防接種による風しんの免疫付与が重要な対策であると考えられた。また14例は3つの企業内での集団感染とみられ、事業所における風しん患者発生時の感染拡大防止等の対応は重要であるとともに、平時において、予防接種を受けやすい職場環境づくりも重要であると考えられた。
- 先天性風しん症候群(CRS)については、管内2市の保健師向け説明会や産科医療関係者が集う症例検討会で啓発を実施した。幸い危惧された先天性風しん症候群の発生はなかった。